

福岡県立早良高等学校

「ほめて伸ばす」を合い言葉に、地域と共に生徒を育てる

平成29年度の同校のスローガンは「元気澁刺 輝く笑顔 地域と共に早良高校」+powerfulです。「生徒が通いたい、保護者が通わせたい、地域が応援したい、職員が働きたい」学校づくりを目指して教育活動を行っています。

1 授業改善の目指す方向性

「生徒たちが幸せな社会人として生きていける力をつける」を教育目標に掲げ、確かな学力育成のために、ICT機器の活用やアクティブ・ラーニングを取り入れた授業及び観点別評価の実施を通して生徒の主体的に学ぶ態度の育成を目指しています。また、福岡地区唯一の体育系コースであるスポーツコミュニケーションコースでは、専門種目の競技力に加えてコミュニケーション能力の向上を図っており、社会に貢献できる生徒の育成を目指して更なる特色化・魅力化を図っています。

2 アクティブ・ラーニング型授業の具体的な取組

ホームページで公開されている学校紹介動画では、「楽しみながら成長を実感できるよう工夫された授業は、早良高校の魅力の一つです」と授業がPRされています。

ICT機器の積極的活用により、授業中の説明を分かりやすく簡潔に行い言語活動の時間を充実させることができるようになりました。生徒は論述問題やプレゼンテーションに取り組んだり、互いに教え合ったり、グループで問題解決をしたり、という活動に積極的に取り組んでいます。

また、国語・数学・英語については中学校の学習内容の学び直しを行うことで、「中学校で勉強が苦手だったが高校で頑張りたい」という声が出るようになる等、意欲を伸ばし、基礎学力の定着につながっています。

3 観点別評価の導入

平成28年度から「生徒がやる気を出し、前向きな学校の雰囲気を作り出す」ために観点別評価を本格的に導入し、アクティブ・ラーニング型授業の導入と併せて指導と評価の一体化を図っています。「ほめて伸ばす」を合い言葉に、授業中の生徒の自主性や積極性を加点法で評価します。さらに効果的な学習評価が可能になるよう、改善しながらシステムの定着を図っているところです。



ICTを活用した英語の授業

4 地域との連携

地域の保育園や小学校との交流、地域行事の運営ボランティア、祭りへの参加等、生徒が地域で活躍する場が増えています。隣接する公益財団法人オイスカの西日本研修センターで農業を学ぶ海外研修生との交流も行っています。生徒が自らのキャリアについて考える機会を得るとともに、地域の方々が「早良サポーター」として生徒を見守り、学校の教育活動を支援しています。

5 職員研修と授業参観の工夫

(1) アクティブ・ラーニング型の職員研修

授業力向上のために「今日からできるICT機器を活用した授業づくり」「アクティブ・ラーニングの実践発表」「新聞活用教育（NIE）とアクティブ・ラーニングの取組について」「支援・配慮が必要な生徒の理解」等の研修を行っています。

講義だけではなくワールドカフェ形式等のアクティブ・ラーニング型の研修を実施することで、教員同士の意見交換が促進され、日常のコミュニケーションの活性化につながっています。

(2) 「プラス思考」の授業参観

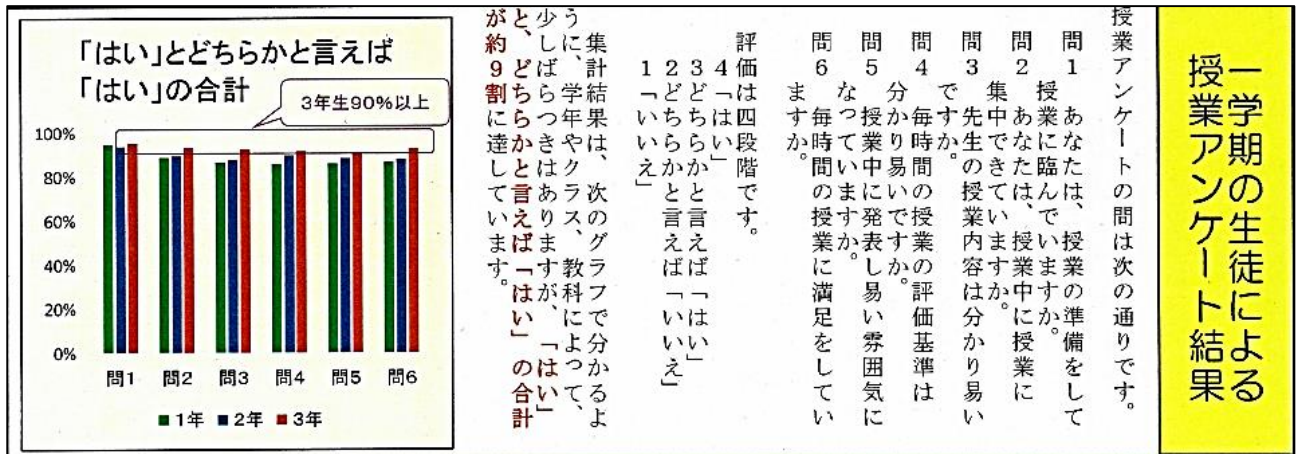
相互授業参観週間には参観者が授業に対する感想を書きますが、「批判は一切しない」ことが原則となっています。互いに良い点をほめて学び合いながら授業の可能性を引き出す雰囲気創られ、進んで授業を公開する教員が増えました。

他校や地域の小・中学校の公開授業にも若手教員を中心に積極的に参加しており、学んだことを校内に還元しています。

6 アクティブ・ラーニング型授業導入の成果

平成23年度に学校改革に着手して以来、年を重ねるごとに授業や学校行事、進路実績の面などで良い変化が現れています。特に、体育祭では、リーダーシップをとる生徒の姿が顕著になりました。ボランティア等の課外活動に自ら進んで参加する生徒も着実に増えています。

今年度の授業アンケートの結果からは、生徒の授業満足度が非常に高いことがわかります。特に「授業中に発表し易い雰囲気になっていますか」の問いに多くの生徒が「はい」と答えていることから、生徒が安心して授業中の活動に取り組んでいることがわかります。



(早良高等学校「校長だより」平成29年度第3号から抜粋)

7 今後に向けて

昨年度導入された自己推薦入試制度により、「早良高校で学びたい」という意欲のある生徒がたくさん入学しました。生徒の意欲と主体性をさらに伸ばして学力をつける授業を行うために、授業と学習評価の改善に継続的に取り組んでいます。